



# じつきょう

商業教育資料 No. 107 通巻395号

## 全商協会の方向性と商業教育への思い

～生徒一人一人が光り輝く商業教育～

全国商業高等学校長協会 公益財団法人全国商業高等学校協会  
理事長 中山 博之 (東京都立第三商業高等学校長)

### はじめに

平成28年12月21日に、中央教育審議会（以下、「中教審」という。）から、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等の学習指導要領の改善及び必要な方策等について」と題した答申が公表されました。学習指導要領の改訂作業は、通常、10年単位で行われてきましたが、現行学習指導要領が年次進行で開始された翌年の平成26年11月20日、文部科学大臣が中教審に対して、初等中等教育における教育課程の在り方について諮問しました。その後、平成27年8月26日に中教審教育課程企画特別部会から「論点整理」が示され、それに基づき、各部会やワーキンググループで審議され、平成28年8月26日に「審議のまとめ」、そして、平成28年12月21日に答申の公表となったことは周知の事実です。今年度末には、高等学校新学習指導要領が告示されます。

また、平成29年7月13日、「高大接続改革の実施方針等の策定について」が文部科学省より公表されました。「高等学校基礎学力テスト（仮称）」は「学力を保障する」というイメージが伝わる名称が良い等の意見から、「高校生のための

学びの基礎診断」とし、「義務教育段階の学習内容を含めた高校生に求められる基礎学力の確実な習得」と「それによる学習意欲の喚起」を図るため、高等学校における多様な学習成果を測定するツールの一つとして活用できるよう、国が一定の要件を示し、それに則して民間の試験等を認定する仕組みの創設が考えられています。いわゆる民間事業者・団体、校長会、教育委員会が実施している検定・小テスト等、多様な測定ツールを考えているようです。

一方、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」については、名称を「大学入学共通テスト」とし、「国語」、「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ・数学A」についてはマークシート問題の見直しと共に、記述式問題を出題する。英語では、現に民間事業者等により広く実施され、一定の評価が定着している資格・検定試験を活用する。具体的には、資格・検定試験のうち、試験内容・実施体制等が入学者選抜に活用する上で必要な水準及び要件を満たしているものを大学入試センターが認定し、高校3年生の4月～12月に自ら選択して受けた2回までの試験結果及びCEFRの段階別成績表示を要請のあった大学に提供する、とされています。

### も く じ

全商協会の方向性と商業教育への思い …… 1  
これからの商業教育と日本商業教育学会 …… 6

連載  
ワークショップデザイン 第4回 …… 10

本年度は、全国商業高等学校長協会（以下、「全商協会」という。）では、それらをも踏まえた教育課程の編成や学校経営に焦点を当てて、全国の先生方と協議していきたいと思います。

※CEFR（Common European Framework of Reference for Languages：Learning, Teaching, Assessment）の略。外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠。

## 1. 全国商業高等学校長協会創立 70 周年

全商協会は、全国高等学校長協会の商業部会として昭和 23 年 5 月 28 日に発足以来、日本の商業教育の振興を図ることを目的として、高等学校における商業教育の牽引車としてその任務を果たしてきました。商業教育に関する調査研究、全国高等学校長協会に関する事業、公益財団法人全国商業高等学校協会（以下、「公益財団」という。）に関する事業の助成、機関紙の発行などを主な事業として、現在も商業教育の振興・発展に大きな成果を挙げています。

平成 30 年度には、全商協会創立 70 周年の佳節を迎え、記念式典を挙行し、記念講演、周年記念事業を実施します。先輩諸賢の功績を敬仰するとともに、社会の要請に応えられる商業教育の振興・発展に更なる実践を目指すことを確認する好機となります。

全商協会の平成 29 年度会員校数は、1,404 校、生徒数は 297,022 人を数え、商業を学ぶ生徒たちに時代が求める「使える知識・技術を身に付けさせる」ための質の高い商業教育に関わるサービスを提供できるよう努めています。

毎年、春と秋に総会および研究協議会、年間 7 回の本部役員会、生徒を対象とする「全国高等学校競技大会」（珠算・電卓、簿記、ワープロ、英語スピーチ、情報処理、プログラミング、生徒商業研究発表）、教員を対象とする「商業教育講習会」（ビジネス経済、情報スキル、会計実務）、「実用英語セミナー」、「商業教育研究大会」、宿泊を伴う「商業教育指導者研修会」などの事業を精力的に展開し、生徒及び教員の人材育成に努めてい

ます。特に「情報スキル」、「会計実務」、「実用英語セミナー」の講習会は、文部科学省免許状更新講習の認定を受けています。この他に、公益財団法人全国商業高等学校協会主催の各種検定試験の三種目以上 1 級合格者表彰、卒業生成績優秀者表彰、商業教育に多大な成果を挙げた高等学校に対する学校表彰、生徒及び教員を対象とする国際交流事業（海外派遣）なども公益財団と共催して主要な事業と位置付けています。

高校生の就職に関しては、全商協会として平成 21 年度より「就職問題連絡協議会」を立ち上げ、年 2 回開催しています。また、リーフレット「高校の商業教育」を作成し、各企業を訪問して商業高校生の PR に努めるとともに、多くの企業や関係団体の採用担当者を全商協会に招聘して継続的に協議会を開催しています。今後も各分野に積極的に働きかけ、商業高校生の就職について強く支援する体制を構築します。大学進学に関しても、「高大接続連絡協議会」や大学訪問をとおして、全商協会大学特別推薦枠（平成 29 年度入試 21 大学 237 名の推薦枠）の拡大及び商業教育の高大連携を推進します。

## 2. 公益財団法人全国商業高等学校協会

本協会は、昭和 31 年に高等学校における商業教育に関する調査研究を行い、且つ、その成果の普及徹底を図り、商業教育の発展向上に寄与することを目的に「財団法人全国商業高等学校協会」として発足しました。以来、全商協会とともに商業教育の振興・発展に寄与してきました。

昭和 25 年の第 1 回「珠算実務検定試験」（主催は昭和 31 年の「財団法人」設立までは、全商協会であった。）を皮切りに、平成 24 年 6 月には、受験申込者数の累計が 1 億人を突破し、平成 28 年度末には珠算・電卓、簿記、ビジネス文書、英語、情報処理、商業経済、会計実務、ビジネスコミュニケーション、すべての検定試験を合わせ、受験申込者数は 1 億 797 万人を超え、商業を学ぶ生徒たちの知識・技術の定着に極めて大きな役割を果たしてきました。また、本協会は毎年、珠

算・電卓、簿記、ワープロ、英語スピーチ、情報処理、プログラミング、生徒商業研究発表などの全国競技大会・コンテストを全商協会と共催で開催し、生徒の知識・技術の向上に努めています。

今や本協会主催の各種全国競技大会・コンテストは生徒たちの日頃の学習成果を発表する機会として、また部活動の大きな活動目標として欠かすことのできない存在となっています。これらの公益的な事業活動が評価され、公益法人制度改革によりこれまでの「財団法人全国商業高等学校協会」は、平成23年4月1日より「公益財団法人全国商業高等学校協会」に認定されました。

本協会は「産業社会の発展に資する目的で、高等学校における商業教育の振興、普及を図り、社会に貢献できる自立した有為な人材育成に寄与すること」を事業目的として、日本の高等学校における商業教育のさらなる振興・発展を目指す協会として生まれ変わり、①商業教育に関する調査・研究 ②教員の資質向上 ③生徒奨励 ④商業に関する各種検定 ⑤商業教育の振興に関する助成等の諸事業を行っています。

具体的な事業としては、高等学校学習指導要領に対応した各種検定試験を実施しています。本協会で開催している検定試験は第一に、文部科学省の学習指導要領に則った検定内容であること、第二に、その学習成果を測ることを目的とする検定試験であることを念頭におき、社会で活用できる知識・技術の習得を図る検定試験を目指し鋭意努力を重ねています。

また、平成28年度まで50回にわたり毎年夏季休業中に教員の海外教育視察事業を実施してきましたが、平成22年度からは、生徒についても、12月に高校生国際交流事業を実施しています。昨年、平成28年度は、「珠算・電卓」、「簿記」、「ワープロ」及び「情報処理」の全国競技大会・コンタールの団体優勝校の生徒3名ずつを中華人民共和国・大連市に派遣し、現地の高校生との国際交流を図り、日本の商業教育の成果をPRするとともに、国際的ビジネスパーソンの育成に寄与する機会を設けています。

次に、本協会では返還義務のある貸与方式で高

校時代に商業科目を学んだ生徒を対象に、大学生に対する奨学金事業を実施しています。平成24年度からは、奨学生が商業の教員となった場合は、返還を免除する規程を加えました。また、平成22年度からは、高校在学中の生徒についても奨学金制度を導入し、返還義務のない給付型の奨学金制度として、1人につき年額5万円、全国で250名、合計1,250万円の規模で実施し、非常に多くの生徒及び学校が利用しています。制度の趣旨をご理解いただき、今後も有効に活用いただければ幸いに思います。

以上、公益財団法人全国商業高等学校協会の主要事業についていくつか報告させていただきました。今後とも公益財団としての使命を自覚し、内閣府の監督のもとコンプライアンスとガバナンスを適正に確保しつつ、文部科学省のご指導をいただき、全商協会、関係諸機関と緊密な連携を図りながら商業教育の更なる活性化を目指してまいります。

### 3. 働く覚悟を持った人材の育成

さて、今、学校教育が大きく変わろうとしています。人工知能（AI：artificial intelligence）の発達と共に、ものづくり技術・デジタル技術・生命を操るバイオ技術が融合し第4次産業革命と言われています。そして、これからの時代を生きる若者への学力観の問いかけが始まっています。まさに、これまでの学力観では通用しない時代を迎えています。高等学校で求められる学力は、時代がこのような加速的に変化する中であって、「覚える学力」に加え「考える学力」を重視した教育、更に学校教育のみで学力を育成するのではなく、卒業後も学び続けなければならない時代となっています。そのような、教育の質的変換を象徴するものが、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法「アクティブ・ラーニング」です。学習者が能動的に学習することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図るものです。具体的には、発見学習、問題解決学習、体験学習、

調査学習等が含まれますが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法であると言われています。全国の商業高等学校では、すでに実際のビジネスの場面を想定した授業等を実践し、「主体的、対話的な深い学び」の視点を取り入れた授業が行われ、全国各地の研究会では質の高い研究や特色ある実践事例が数多く発表されています。その成果を共有して教育課程編成や授業改善あるいは教材作りなどにも役立てていただければ幸いです。

現在、我が国の社会においては、世界に類を見ない速さで少子高齢化が進行しています。人口減少がそのまま生産年齢人口の減少となり、地方では大都市圏への人口流出が多く弊害を起しています。若年層が地方に留まる地方創生、即ち「自立」が期待されているところです。日本の人口は平成20年(2008)の1億2,800万人をピークとして、現在はピーク時よりも170万人減ったに過ぎませんが、平成62年(2050)にはピーク時の約24%である約3,100万人が減少し、日本の人口は約9,700万人程度になると予測されています。人口減少が社会に与える影響は計り知れません。

また、新しい産業・職業が生まれている一方で、既存の職業の多くは近い将来新たなビジネスモデルに入れ替わらざるを得ないという状況です。仕事が機械、ロボット、インターネット等に置き換えられることにより、人が担う仕事は知覚、感覚、コミュニケーション等、人間特有の能力を発揮できる領域へと変化していくことが予測されます。さらに、経済面では、製造業からサービス産業へ、物から価値の提供へ、ハードからソフト分野に一層移行して行くものと思われれます。技術や経済の成長・発展が豊かな社会づくりに寄与しているかどうかが先進国の課題の一つと言えます。

以上の社会環境のもとに、教育分野においては、現在、国による様々な教育改革が進行しています。高等学校では、現行学習指導要領の改訂に留まらず、高校教育の質を保障するための「高校生のための学びの基礎診断(仮称)」や、大学との接続を踏まえた大学入試等の改革も進んでいます。専

門高校は、産業教育の中心的な教育機関として、これまで多くの有為な専門的職業人を育ててきました。今後、我が国の産業構造や社会がどのように変わろうとも、その重要性は不変であり、さらに増していくものと考えています。そして更に、今後、専門高校に対する期待は、社会の変化と共に新たな責任を果たすことを求めています。

昨年の実質経済成長率は1.3%でしたが、この低い成長率の中でも労働力不足が深刻化している日本には、世界に先駆けて多くの課題解決が期待されています。先進国の人口は減っても世界の人口は増えています。気候、環境問題は自国だけに留まりません。グローバル化を考える原点はここにあります。また、需要の減少を量で制限しようとする、過度な競争に陥ります。そうではなく、小さな改善や工夫が大きなイノベーションを生み出す、即ち、質の向上が日本の役割だと思えます。そして、変化は行き過ぎた格差を生み出します。人としてあるべき姿、人間力の養成が最も重要な課題でもあります。

さて、これからの高校生に期待される役割は何か。舞台は世界であることに異論はないと思えます。実際に海外で働くことばかりではありません。世界から日本を見る視点を持ちながら、日本の地方から世界を相手にすることも不可能な事ではありません。期待される役割は、しっかりとした基礎学問の理解に基づく応用力です。理解は座学では得られませんので、知覚に訴える実物が必要となります。そしてキャリア教育で学ぶ動機づけを行い、アクティブ・ラーニングの視点で自ら学び考える習慣を身に付けることです。私たちは一体何のために勉強し、何のために仕事をするのか、もちろん、自分のためでもあります。働くとは、人のため、社会のため、という覚悟であることを認識することも重要です。専門高校は、普通高校と違い、実学で学問を自分の力にできるという大きな優位性があります。私たち指導者は、教育改革の動向までも視野に入れながら、豊かな人間性と強い専門性、知識・技術を持ち、思考力・判断力・表現力を身に付けた職業人を育てる責務があります。

## おわりに

これまで商業教育は、地域と連携し協力を得て教育活動の充実を図ってきました。その一例として、商品開発、販売実習、国際交流、模擬株式会社の運営、地域のイベントへの参画や活性化の提案等、様々な学習活動を展開し、生徒の起業家精神、勤労観・職業観、倫理観の涵養や、コミュニケーション能力等を育成するなど地域に根ざした人材育成を積極的に図り、地域に根ざした商業高校として信頼されてきました。このような商業教育の取組を評価し、文部科学省は、「地方創生を担う人材の育成について」(平成26年10月9日)において、専門高校が地域産業で活躍する実践的専門的職業人を育成していると述べています。

今後の商業教育では、地域における実際のビジネスに即した実践的、体験的、探究的な学習活動を更に推進して、生徒が自律的で持続的な社会を創生できる力を身に付けることが極めて重要です。専門高校をはじめとし、地域創生、地域の特色化を支援する高等学校の役割は、益々期待されています。地域産業界との連携や地域の特色あるものづくり、サービス、高度な日本技術を広く紹介するアイデアなどを生徒に考えさせ、生徒の将来の仕事や充実した市民生活、家庭生活、職業生活に繋いでいくことが大切です。現行学習指導要領が示す確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視した「生きる力」の理念の基に「基礎的・基本的な知識・技術の習得、それらを活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力の育成、自ら学習に取り組む態度の育成」の主旨を生かした教育実践が肝要です。

平成28年10月に千葉県千葉市のカンデオホテルズ千葉を会場とした全商協会秋季総会の研究協議会では、「地域創生に資する商業教育の在り方について」というテーマでシンポジウムを行いました。パネリストや参加された校長先生方から自校での特色ある取組についての発表を聞き、商業教育は単なる知識の詰め込みではなく、学習成果を活用し実践する教育を行っていることがより明確になったと考えています。

現行学習指導要領への改訂作業が始まった数年前、商業高校での商業教育が資格取得指導にあまりにも偏り過ぎている、検定試験の取得に偏重した内容に留まっているという議論が全国的にありました。しかし、平成25年度から現行学習指導要領が年次進行で実施され、全日制課程では現行教育課程の完成年度を過ぎた昨年のシンポジウムでの各校の教育実践を聞く限りでは、資格取得指導のみに終始することなく、全国的に各地域に根ざした、地域の特色に沿った地域連携教育が着実に行われているという現状を再確認できた機会だったと思います。

まさに、現行学習指導要領の主旨、すなわち、21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」(Knowledge-based Society)です。そして、この「知識基盤社会」の特質として、「知識には国境がなく、グローバル化が一層進む」・「知識は日進月歩であり、競争と技術革新が絶え間なく生まれる」・「知識の進展は旧来のパラダイムの転換をともなうことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要になる」・「性別や年齢を問わず参画することが促進される」の4点が挙げられています。特に教科「商業」の教育実践では、「実際のビジネスの場面を想定した授業」・「社会に出て使える知識・技術の習得」・「実学としての商業科目」という理念がしっかりと理解されており、各校の指導者及び現行学習指導要領の大きな成果だと思っています。

私たちは商業教育をとおして、わが国の将来をも左右する仕事に携わっているという責任と自覚のもと、全商協会の果たす役割は大きいものと自負しています。「世界から信頼され、尊敬される商業人の育成」に「チーム全商」として全商協会及び公益財団とともに全力を挙げる所存です。生徒個人の将来、生徒の夢と希望を実現する、生徒一人一人が光り輝く商業教育を今後も推進していきましょう。